

SUWA SHINKIN BANK REPORT 2026



全国で進む信用金庫の御宿場印プロジェクト ―諏訪信用金庫は中山道下諏訪宿を担当―



90
YEARS
ANNIVERSARY

諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

皆さまには、平素から諏訪信用金庫に対しまして、格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに当金庫の現況につきまして、より深くご理解いただくために、経営方針ならびに2025年度の業務・活動報告をまとめました「諏訪信用金庫ディスクロージャー2026」を作成いたしました。ご覧いただければ幸いに存じます。

2025年度は、トランプ米大統領が高関税政策の導入を発表して以来、その発動や延期、停止を繰り返す動きに、世界が翻弄されました。それでも世界的なAI需要が幅広く企業業績を押し上げ、諏訪地方の企業も半導体関連を中心に、回復基調への動きが見られました。ところが、年度後半に米国とイスラエルによるイランへの大規模な武力攻撃が行われました。この紛争で原油輸送の要衝・ホルムズ海峡が事実上封鎖され、産業の根幹となるエネルギーや材料の価格と供給が不安定となり、諏訪地方にもその深刻な影響が波及しています。そうした中、長野県内の金融業界では地銀2行が合併し、新銀行がスタートしました。

さまざまな新しい動きがあり、予期せぬ大きな流れの中で、地域では生活や事業活動を守る努力が続いています。改めて信用金庫の存在意義が問われますが、当金庫は信用金庫設立の原点に立ち、その使命を果たします。銀行と信用金庫は、成り立ちや仕組み、目指す方向性が異なります。信用金庫は、限定された営業エリアの中で健全経営をしながら、地域住民や中小企業をサポートするという設立目的があります。地域の動きとは切り離せない運命共同体であり、私たちはこの基本を再確認しています。

諏訪地方は2025年、原村が「街の幸福度ランキング」3年連続1位となり、上諏訪温泉が「第39回にっぽんの温泉100選」で県内最上位となるなど、全国から注目される高いポテンシャルがあります。この地域にあって当金庫は2024年度から、3カ年計画で「あなたの一番身近な相談相手。そうだ、しんきんに聞いてみよう!」をビジョンに掲げ、地域の皆さまから、いろいろなご相談をいただける信用金庫を目指して、各種施策を推



進しています。さまざまなことに対し、常にもう少しの付加価値を意識する「プラスワン」の発想を推進しています。

諏訪信用金庫はいよいよ、第91期の2027年3月6日、創立90周年を迎えます。世界恐慌の影響が残る昭和初頭、中小零細企業や一般大衆を対象とする庶民金融機関設立の要望に応じて誕生以来、当金庫は一貫してその使命に徹してまいりました。節目を迎えられますことは、ひとえに地域の皆さま方の長きにわたるご愛顧と、諸先輩の努力の賜物であり、心より感謝申し上げます。2026年は、皆さまに対する感謝の気持ちを込めた各種記念事業を行い、記念日を迎えたいと存じます。

今後も地域の皆さまの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

諏訪信用金庫

理事長 田中 輝明



おかげさまで90周年

あなたの一番身近な相談相手
そうだ、しんきんに聞いてみよう!

これまで支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

90年の歩みは、皆さまとともに重ねてきた大切な時間です。

これからも、皆さまの信頼にお応えできるよう寄り添い続けます。



ロゴに込めた想い

しなやかで強弱のある曲線で描かれた「90」の、ゼロの空間の中に「あなたの一番身近な相談相手」であることの象徴として「握手」のモチーフを内包しました。地域のランドマークとして親しまれる看板カラーの「オレンジ」と信頼と実績を表す「ディープブルー」。地域への熱い想い、冷静な判断力が融合する様子を象徴的なバイカラーで表現しています。

90周年記念事業

記念事業のスタートとして 2026 年 3 月 30 日にホームページを刷新いたしました。また、周年記念CMやピンバッジも作成いたしました。地域の皆さまへの感謝を込めた多彩な事業・イベントを今後も展開予定です。



90周年記念特設ページ

<https://www.suwashinkin.co.jp/90th/>



経営理念

諏訪信用金庫は、みなさまと共に、
豊かな地域社会の実現をめざします。

経営方針

- 1 質の高い金融サービスの提供
- 2 法令遵守と健全経営の徹底
- 3 職員の資質向上
- 4 働きがいのある明るい職場づくり

当金庫の概要 (2026年3月31日現在)

名称	諏訪信用金庫
本店所在地	〒394-8611 長野県岡谷市郷田2-1-8
電話番号	0266-23-4572
創立	1937（昭和12）年3月6日
店舗数	21店舗
ATMコーナー数	26ヶ所
常勤従業員数	273人
会員数	20,262人
出資金	8億44百万円
預金積金残高	4,297億93百万円
貸出金残高	1,977億83百万円
自己資本比率	22.81%

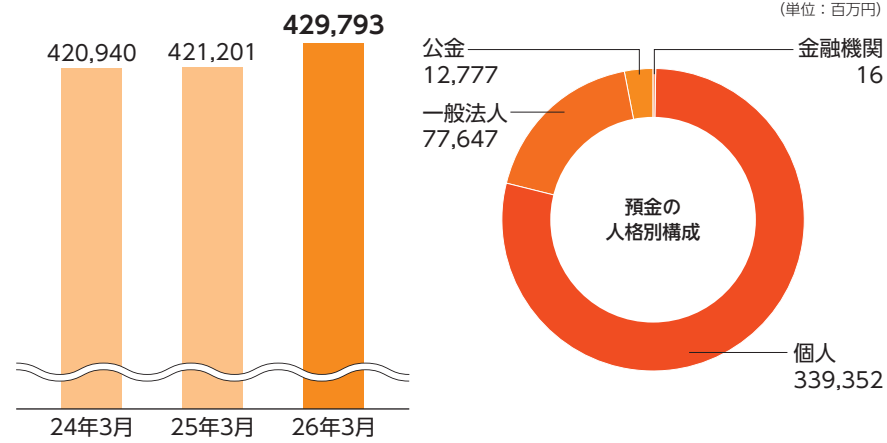
2025年度業績ハイライト

●預金積金残高

4,297億円

前期末比+85億円

預金積金残高は、個人のお客さまからの預金を中心に順調に推移し、前期末比85億91百万円増加しました。

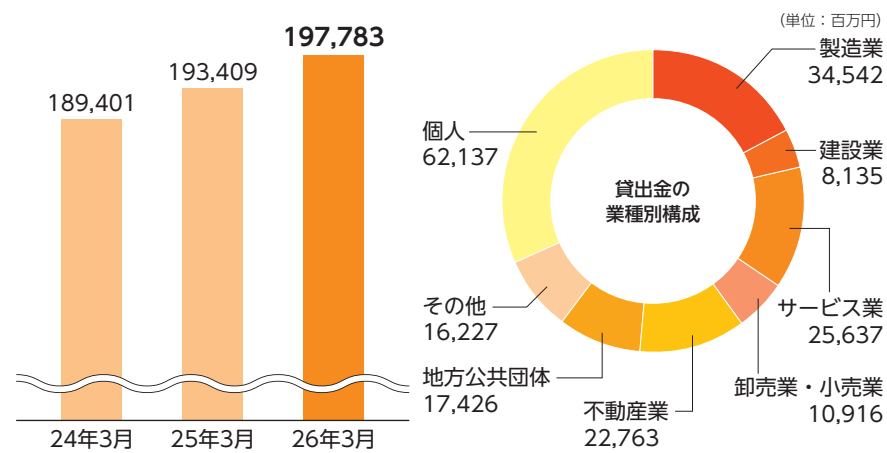


●貸出金残高

1,977億円

前期末比+43億円

貸出金残高は、地域のお客さまの資金ニーズに積極的に応えし、前期末比43億73百万円増加しました。

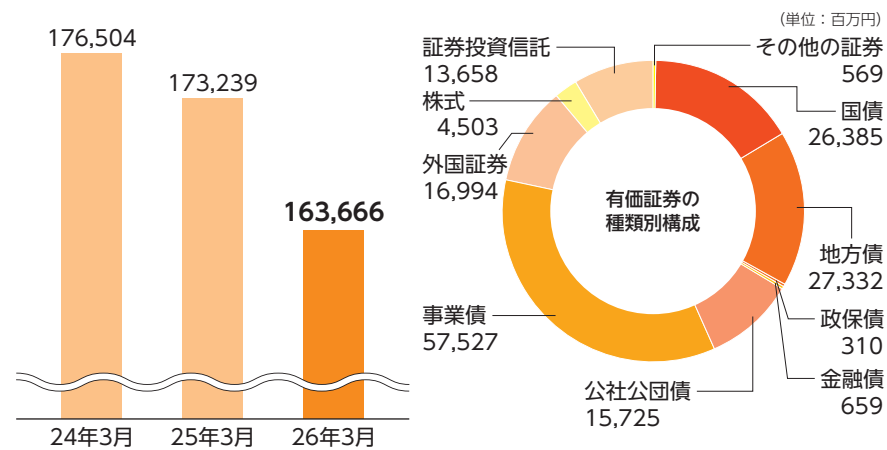


●有価証券残高

1,636億円

前期末比△95億円

有価証券運用は、流動性が確保された商品、リスクの所在が明確な商品を中心とした運用を心掛けています。

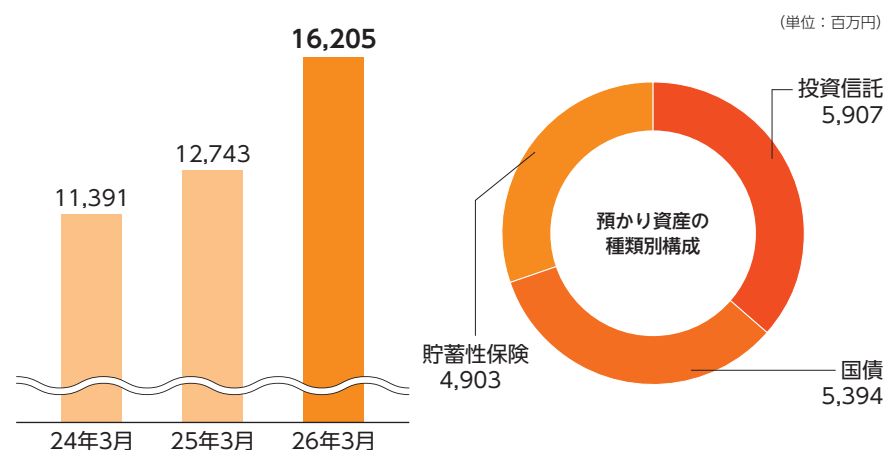


●預かり資産残高

162億円

前期末比+34億円

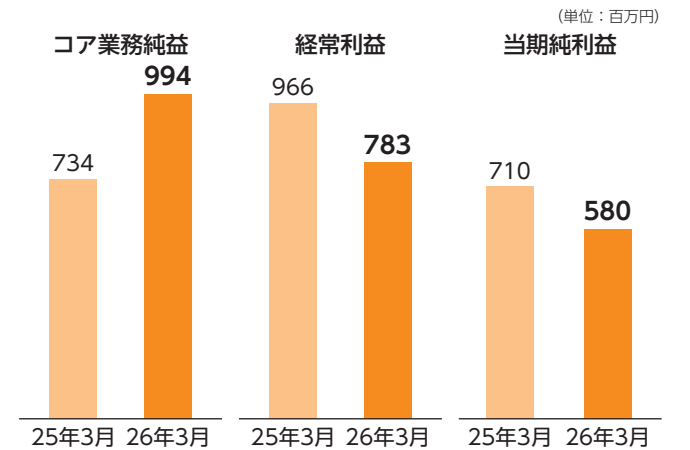
お客さまの保有資産の状況や運用方針に合わせた、商品やサービスの提案を行っています。



●当期純利益

5.8億円 前期末比△1.2億円

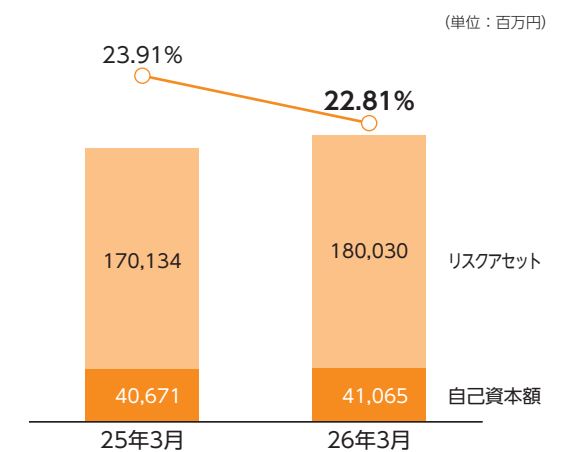
金融機関の主業務活動による利益を示すコア業務純益は、資金利益の増加や経費の減少などにより、前期末比2億60百万円増加となりました。経常利益は有価証券ポートフォリオのメンテナンスに伴う国債等債券売却損の増加や信用コストの増加などにより、前期末比1億82百万円減少、当期純利益は1億29百万円減少となりました。今後も、地域のお客さまのニーズにお応えできる業務展開と安定的な収益確保により、「安心と信頼」のさらなる向上に努めてまいります。



●自己資本比率

22.81% 前期末比△1.10ポイント

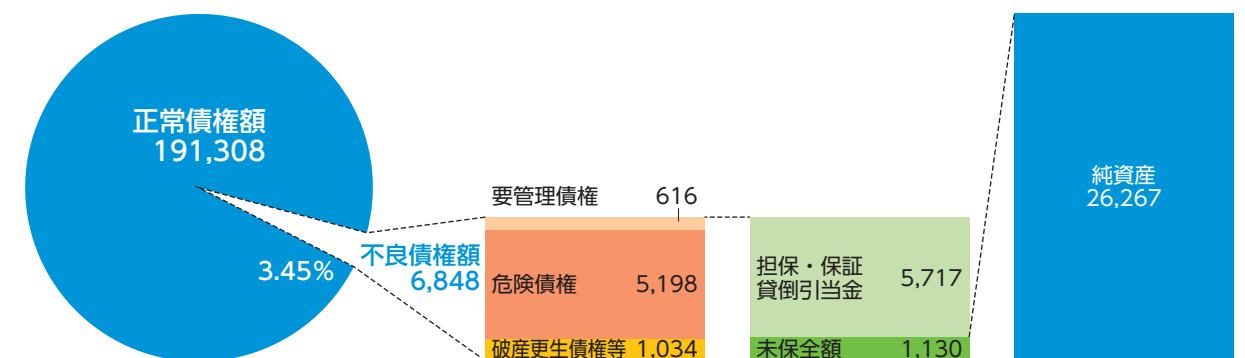
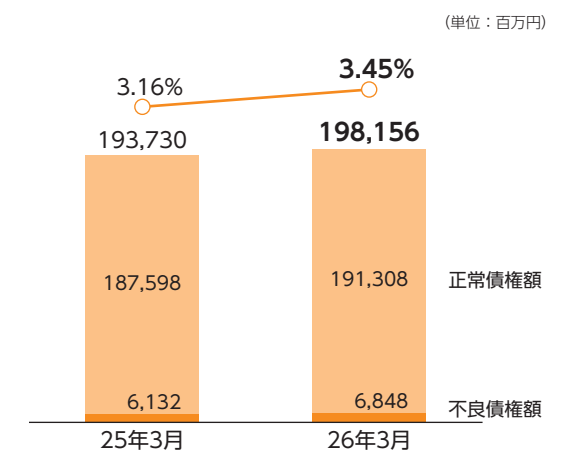
自己資本比率は、金融機関の健全性を示す指標として用いられ、その水準が高いほど、経営がより健全であることを示しています。2026年3月期における自己資本比率は22.81%であり、金融庁告示に定められている国内基準4%を大幅に上回っています。



●不良債権比率

3.45% 前期末比+0.29ポイント

金融再生法に基づく不良債権額は、前期末比7億16百万円増加の68億48百万円、不良債権比率は0.29ポイント上昇し3.45%となりました。不良債権のうち83.4%は担保、保証等により保全されており、保全されていない部分は11億30百万円となりますが、当金庫は262億円の純資産を備えており、影響は極めて少ないものとなっています。



中期経営計画

諏訪信用金庫は、お客さまをはじめとする地域のすべての人の成長と幸せのために行動し、協同組織の地域金融機関として地域が抱える課題解決に貢献し、持続可能な地域社会を創るべく役職員一丸となって取組んでまいります。

計画名称

すわしん『サステナブル・ビジョン2026』

中期経営計画ビジョン

あなたの一番身近な相談相手

「そうだ、しんぎんに聞いてみよう！」

皆さまからいろんなご相談をいただける信用金庫を目指します



活動スローガン

未来へ向かって プラス1

お客さま満足度の向上へ プラス1

地域の発展に プラス1

職員の幸せに プラス1

生産性の向上へ プラス1

中期経営計画のメインテーマ

1. お客さま満足度（CS）の向上【お客さまの目線】

お客さまから選ばれる金融機関となるために「職員の接客、提案・相談対応能力」「商品・サービス、店舗」の充実を図ります。

2. 地域貢献【諏訪地域の目線】

持続可能で豊かな地域社会実現のために「諏訪地方のハブ（中心、中核）」になるべく活動します。

3. 人的資本経営（職員の幸せ、ウェルビーイング）【職員の目線】

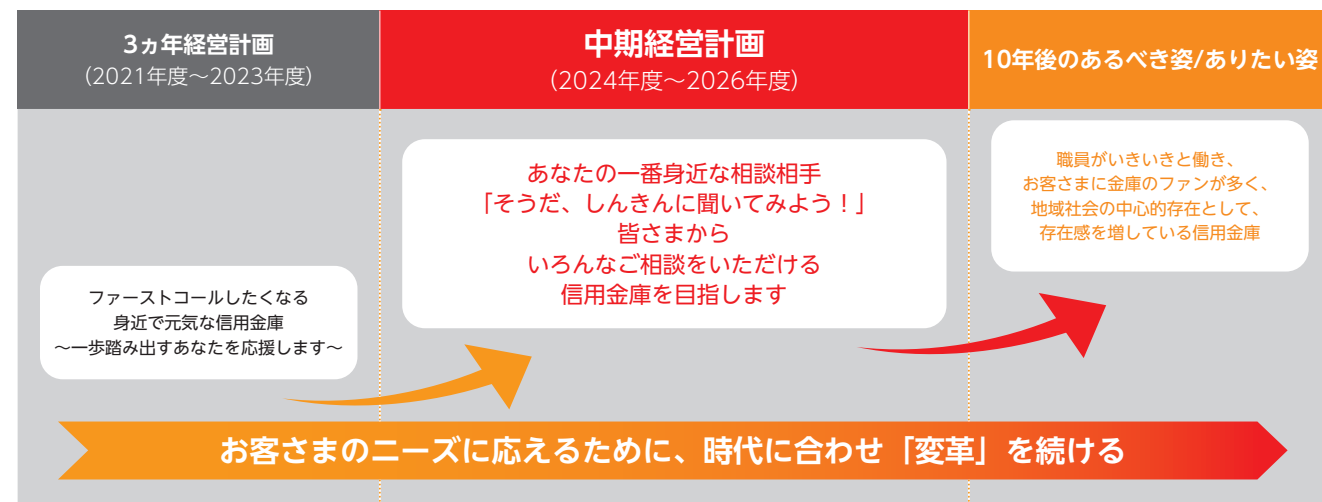
職員が能力を発揮し、働きがいを感じる組織文化・風土を醸成し、仕事への熱意、金庫への愛着心の向上を通じて成長を目指します。

4. 生産性の向上【金庫の目線】

「ワークライフバランスの向上」や「働き方改革の一層の推進」と、経営基盤の強化を両立させるべく生産性の向上を目指します。

諏訪信用金庫が目指すもの

「10年後のあるべき姿/ありたい姿」からのバックキャストと、「今後10年間にどのようなことが起こり得るか」を考えるフォアキャストを行い中期経営計画を策定しました。



2025年度の主な活動内容

諏訪信用金庫 SDGs宣言

当金庫は国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、2019年6月21日にSDGs宣言を行いました。経営理念「諏訪信用金庫は、みなさまと共に、豊かな地域社会の実現をめざします。」のもと、地域金融機関として事業活動を通じ、「①地域社会 ②地域環境 ③地域経済」の3つの側面から持続可能な地域の実現に貢献していきます。



SDGs「持続可能な開発目標」とは

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成されています。

SDGsへの取組み

SDGs定期預金「諏訪の森Ⅱ」

SDGsの取組みの一環として、当金庫のSDGsへの取組みに賛同していただいたお客さまからお預かりした預金額等に応じて寄付や寄贈を実施しています。

2025年度はSDGs定期預金「諏訪の森Ⅱ」を発売し、多くのお客さまからお預りいただき、御柱祭の御用材の植林などに役立てていただくことを目的に、諏訪大社に50万円を寄付しました。今後もSDGsの実現に貢献する取組みを行っていきます。



すわしんSDGs宣言サポートサービス

事業者さまのSDGsの取組みをサポートするために、「すわしんSDGs宣言サポートサービス」を提供しています。同サービスでは、事業者さまのSDGs宣言策定のサポートを通じて、SDGsの達成に向けた取組状況の見える化を行い、明らかになった課題に対するソリューションを提供しています。

SDGs債への投資

SDGs債とは、SDGsの目標達成に貢献するための事業の資金調達のために発行される債券です。SDGs債にはグリーンボンドやソーシャルボンド、サステナビリティボンドなどがあり、グリーンボンドは環境改善効果が期待できるプロジェクト、ソーシャルボンドは社会課題に貢献するプロジェクト、サステナビリティボンドは環境・社会課題の両方のプロジェクトの資金調達のために発行されます。

SDGs・脱炭素・ESGサポートローン

SDGs、脱炭素経営やESGに取組むお客さまの資金ニーズに応えるため、「諏訪しんぎん SDGs・脱炭素・ESGサポートローン」を取り扱っています。再生可能エネルギーや省エネルギー設備資金、SDGsの取組みに関わる運転・設備資金にご利用いただけます。

当金庫では、長野県が発行したグリーンボンドをはじめ、SDGs債に投資を行っています。今後もSDGs債への投資を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

2023年度	2024年度	2025年度	2018年度からの累計
40億円	26億円	17億円	169億円

地域環境への取組み

地道に、着実に続く森林の里親事業

諏訪市の北真志野生産森林組合と契約を結び、資金と労働力を提供して森林づくりに協力する「森林の里親事業」が、2014年から続いています。毎年、春と秋に行う協働作業はコロナ禍で中止はあったものの、2025年10月で通算15回目となりました。この日は、役職員と家族36人が参加。同組合員の指導で、雑木伐採とまき作りに取り組みました。



エコアクション21認証取得

環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム「エコアクション21」を認証取得しました。事業活動に伴う環境負荷を把握し、改善していくための仕組みと、その成果を社会に報告するまでの一連の取組みを定めたものです。

当金庫が行う環境活動をまとめたレポートを申請し、中央事務局による審査を受けたところ、当金庫の環境への各種取組みが「エコアクション21ガイドライン」に適合していると認められ、ロゴマークが付与されました。対象事業所は、当金庫本・支店全てです。この認証取得を契機に、さらに脱炭素経営の取組み強化や職員の意識向上を図ります。



認証番号0014699

しんきん諏訪湖スタジアムの美化活動

当金庫がネーミングライツを取得し、利用者に親しまれている「しんきん諏訪湖スタジアム」の美化活動を6月と7月に行いました。

全国高校野球選手権大会長野大会を前にした6月の作業は、本店と岡谷市内の支店から約50人が参加。コンクリート舗装の隙間に生える草まで、丁寧に取り除きました。



諏訪大社の清掃

2012年から続く「すわしん地域ボランティアプロジェクト」で9月、諏訪大社上社の清掃活動を行いました。氏子の抛りどころであり、多くの観光客が訪れる社の環境向上を願い、約60人の役職員が約49*の草や落ち葉を回収しました。御柱祭の御用材植林のために、募集総額の一部を寄付するSDG s 定期預金も行いました。



諏訪信用金庫 環境方針

当金庫は地域環境・地球環境の保全に配慮した事業活動を通じて、地域金融機関としての社会的責任、公共的使命を果たしていきます。

- 1 適用可能な法的要求事項および当金庫の環境側面に関して、当金庫が同意するその他の要求事項を順守します。
 - 2 環境管理システムを構築し、全要員参加により継続的改善への取り組みと、環境汚染の未然防止と環境保全に努めます。
 - 3 この方針に沿って環境目的および目標を設定し、かつ見直します。
 - 4 当金庫は次のような課題を掲げ、全要員一丸となって取り組みます。
 - ①省エネルギー・省資源の推進 ②資源のリサイクル化 ③環境配慮型の金融商品、サービス、情報の提供 ④地域美化運動への参加
- この環境方針は、全要員に周知徹底し、また当金庫外へも公表します。

地域経済への取組み

初の駅構内ATM・茅野駅出張所オープン

JR茅野駅改札前の待合室に、新規ATMを設置しました。駅構内への設置は初めてで、地方税統一のQRコードに対応したATMです。

設置場所は、駅そばが人気の待合室。コロナ禍が明けて駅利用が増える中、ATMの場所の問い合わせが多くなり、設置が望まれていました。テープカットで開設を祝いました。

組織の垣根を越えた連携発展
～第一勧業信用組合年金旅行会来訪～

東京都の第一勧業信用組合の年金旅行一行が、諏訪市を訪れました。同組合とは2021年、「地方創生における包括連携協力に関する協定」を締結しています。組織形態は違いますが、互いの推薦品を営業活動に活用するなど「物」の交流を行い、今回初めて100人規模の旅行で「人」への交流につながりました。今後もさらに交流は続きます。



経済講演会の開催

諏訪信用金庫コース・ビジネスクラブとともに、経済講演会を開催しました。ユースクラブ創立30周年記念では、漫画「島耕作」の作者、弘兼憲史さんが「島耕作から見る日本の未来」と題して講演。現実の社会、経済情勢を取り入れた漫画でも扱った医療や軍事など、現在の技術進展がもたらす恩恵と危険性について話しました。

また、歴史的な結果となった衆院選直後には、ジャーナリストの長谷川幸洋さんが「激動の日本経済、これからどうなる？」と題して、今後の日本の動きを予測しました。

年末には、恒例の小宮コンサルタンツ代表の小宮一慶さんが講演。数々の指標から、翌年の日本経済を展望しました。

ユースクラブは1995年に会員61人でスタート。現在は300人を超えています。

仮想体験などで楽しく仕組みを学ぶ
～学校の金融教育に協力～

各地の学校が主催する金融教育に協力しています。諏訪清陵高校附属中学校では、当金庫マネーアドバイザーらが、3年生に対して生活に必要なお金の貯蓄や投資などについて講義しました。生徒は、自分たちが大人になるまでに必要な金額などを考え、金銭感覚を養いました。また、資産形成は、ライフプランセンター考案のゲームが好評で、生徒は目を輝かせて投資の仮想体験をしました。



詐欺被害を未然防止 ～六斗橋、今井、原支店に感謝状～

各種特殊詐欺が巧妙化する中で、お客さまの大切な資産を守るため、諏訪地方の警察と連携した取組みを進めています。2025年度は六斗橋支店でSNS型投資・ロマンス詐欺、今井支店で占いサイトの特殊詐欺、原支店で警察官を装った特殊詐欺を見出し、被害を食い止めることができ、諏訪地方の警察署から感謝状が贈られました。今後も職員一丸となって特殊詐欺被害の防止に努めます。



地域社会への取組み



アルペンスキーヤー、横内真晴さんを支援

当金庫は2025年から、茅野市出身のアルペンスキーヤー、横内真晴さんを支援しています。横内さんは、高校卒業後、イタリアのスキートームに所属し、アルペンの本場欧州で基礎から技術を習得。異なる雪質や地形への対応力を学びました。ミラノ・コルティナ冬季五輪は選考基準を突破しながら、けがで出場できませんでしたが、懸命なリハビリで徐々に完全復活への戦績を上げています。昨シーズンはリハビリとフィジカル強化をしつつ、欧州で雪上復帰。韓国での復帰戦を経て、全日本選手権では3位入賞し、上昇気流に乗ってきました。現在は、4年後の冬季五輪出場に向けた明確なロードマップに従い、努力を続けています。当金庫のテレビCMにも出演していただき、今後も「世界の舞台へ必死に挑戦し続けます」という横内さんを支援します。



しんきんカップジュニアサッカー大会開催 (独立行政法人日本スポーツ振興センターとのタイアップ事業)

富士見町の町民広場総合運動場で、第12回しんきんカップジュニアサッカー大会を行いました。小学5年生以下が出場し、諏訪地方の新人戦的位置づけの大会として定着しています。当日は諏訪地域少年サッカー連合会に加盟する11チームが参加。保護者らが見守る中で、子どもたちが熱戦を繰り広げました。



新1年生に黄色いハンカチ寄贈

子どもの交通安全を願い、諏訪地方の養護学校を含む小学校30校の新1年生1,286人に「黄色いハンカチ」を寄贈しました。ゾウさんが、旗を上げて横断歩道を渡る絵を描いたハンカチで、児童はカバンに貼り付けて、4月1日から元気に登校しています。県下信用金庫が、毎年行う社会貢献活動として56年続いています。学校では、車通りが激しい通学路などで、自立登校する子どもの安全対策が必要とされ、目につきやすい黄色のハンカチが感謝されています。



フードドライブ事業

県の「年末フードドライブ統一キャンペーン」で、当金庫には2,031点、753*の食料品が集まり12月15日、県諏訪地域振興局に寄託しました。県下信用金庫共同企画で、今年は11月25日から12月5日まで、広くお客さまに呼びかけて実施。寄贈品は子ども食堂など、諏訪地方の28団体に贈られました。



山ん家フェスへ出店

白樺湖畔を拠点に、周辺の観光業に携わる親たちが企画、運営する「山ん家フェスティバル」が、白樺湖リゾートローソン裏芝生広場で行われ、当金庫ライフプランセンターが出店しました。さまざまな形の出し物があり、多くの来場者が訪れる中で、お金に関するクイズを出したり、子どもたちに紙幣の数え方を教える催しが好評でした。



シルキーコンサート開催

2025年のシルキーコンサートは、歌手の坂本冬美さんのステージをお届けしました。坂本さんは、和服姿で代表曲の「夜桜お七」、ドレスで「また君に恋してる」など幅広いジャンルの歌16曲を熱唱。岡谷市カノラホールと茅野市民館で各2公演行った会場は、いずれもほぼ満席となり、多くのお客さまにお楽しみいただきました。

当金庫は、本店がある岡谷市の製糸業の歴史にちなみ、「シルキーコンサート」と銘打って原則年1回、幅広いジャンルの音楽家や芸能人らを招いたコンサートを地域の皆さまにご提供しています。当初は岡谷市1会場の開催でしたが、より多くの皆さまにお楽しみいただくため、2023年から茅野会場も設定しています。



八農ガーデンプロジェクトに協力

八ヶ岳農業大学校が、校内の休耕地約10ヘクタールに花を植え、高原の風景を彩る「八ヶ岳ガーデンプロジェクト」に協力し、18人の若手職員が、花の植栽を行いました。広大な土地を約100種類の花で埋めることで、多くの人に笑顔と感動を届け、学校の特色づくりを目指すプロジェクト。当金庫職員は、約40万株の各種花苗を植えるエリアの中で、ジニアの苗を手植えました。



信用金庫の日の献血と募金活動

毎年6月15日の「信用金庫の日」の近辺に、全国の信用金庫が行う地域貢献活動で、当金庫は今年も献血と募金活動を行いました。献血は、本店会場で17人、六斗橋支店会場で21人の計38人が行いました。SHINKIN愛の募金は、役職員から168,500円が寄せられ、長野県信用金庫協会へ寄託しました。

1951年6月15日に信用金庫法が公布・施行され、同月日が「信用金庫の日」と定められています。



つつじが丘学園へ新米と支援金寄贈

児童養護施設つつじが丘学園に、支援金10万円と新米60*を贈りました。同園への寄付は、当金庫創立80周年記念事業時から続いています。学園の運営は寄付に頼らざるを得ない実情がある中で、前年からの米の高騰と不足の影響を受け、消費の削減を考えていた同園では「今年は特に米の提供が非常にありがたい」と喜ばれました。

このほか、子どもたちを憧れのテーマパークへ連れて行くためクラウドファンディングを支援。短期間で目標金額が集まりました。





職員への取組み

健康経営優良法人認定

経済産業省と日本健康会議が提唱する「健康経営優良法人2026」の大規模法人部門で認定されました。職員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する取組みが評価されました。今後も健康経営の推進を通じて、健康の維持や増進に取組むことで活力ある組織づくりと地域社会の発展に貢献していきます。



窓口接客力向上研修の実施

窓口業務を担当する職員を中心に、接客力向上研修を継続的に実施しています。

本研修は、今一度「接客の基本」に立ち返り、窓口業務における接客スキルの向上に取組むとともに、お客様をお迎えするうえで最も大切な誠意と真心を改めて身につけることを目的としています。今後お客様一人ひとりに寄り添った窓口対応を心がけ、これまで以上に質の高い金融サービスの提供を目指します。



公認サークル活動

職員同士が交流し、よりよい職場環境や組織風土の醸成を目指した公認サークル活動が、活発に行われています。

スノーボードやキャンプなどのサークルでは、所属部署や年代を超えた共通の趣味や活動で、職員同士が親睦を深めています。



次世代育成支援行動計画 (2024年4月1日～2027年3月31日)

すべての職員がその能力を充分に発揮し、安心して働けることができる雇用環境の整備を図るとともに、次世代育成支援について、地域に貢献する金融機関となるため、次のような行動計画を策定しています。

- 仕事と家庭の両立のために、一人当たりの総労働時間の削減を図ります。
- 男性の育児休業取得を推進します。

女性活躍推進にかかる行動計画 (2024年4月1日～2027年3月31日)

女性が従業し、活躍できる雇用環境の整備を行うため、次のような行動計画を策定しています。

- 女性職員に多様な職種で活躍してもらうために、計画期間中に3名以上を渉外担当に登用します。
- 女性の役席の割合を現在27%のところ30%に増やします。

子育てサポート企業

当金庫は次世代育成支援行動計画に取組み、その実績により長野労働局から「子育てサポート企業」として「くるみん」が認定されました。今後も引き続き職員が働きやすい職場環境づくりに取組み、地域社会の発展に貢献していきます。



職場環境改善の取組み

長野県は職場環境改善事業の一環として、誰もがいきいきと働くことができる職場づくりに先進的に取組み、実践する企業を「職場いきいきアドバンスカンパニー」に認定しています。当金庫は「ネクストジェネレーションコース」で認定されています。

